

キリストの復活の力



2026年8月22日 第8課

もしキリストがよみがえらなかったとしたら、わたしたちの宣教はむなく、
あなたがたの信仰もまたむなし。・・・もしキリストがよみがえらなかった
とすれば、あなたがたの信仰は空虚なものとなり、あなたがたは、いまなお
罪の中にいることになる。 (1 コリント 15:14、17 口語訳)



そして、キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。・・・そして、キリストが復活しなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお罪の中にあることになります。

(1 コリント 15:14、17 新共同訳)





プラトンの説に基づくギリシア哲学によれば、本質的に悪である肉体は、不滅の魂の牢獄にすぎません。こうした考え方に照らすと、ギリシア人やローマ人にとって、肉体の復活はどのような意味を持っていたのでしょうか。

こうした理由から、コリントの教会の一部の人々は、復活の存在を否定していました。パウロは、コリント人への手紙第一の15章で、この問題を取り上げています。

これは決して些細なことではありません。復活は救いと密接に結びついているのです。もし復活がないのなら.....福音を宣べ伝えることに、一体何の意味があるのでしょうか。



キリストの復活は 歴史的事実

キリストの復活を
宣べ伝える
(1コリ 15:1-11)

イエスの復活が もたらした結果

復活されたキリスト、
私たちの唯一の希望
(1コリ 15:12-19)

初穂なるキリスト
(1コリ 15:20-34)

私たちの復活

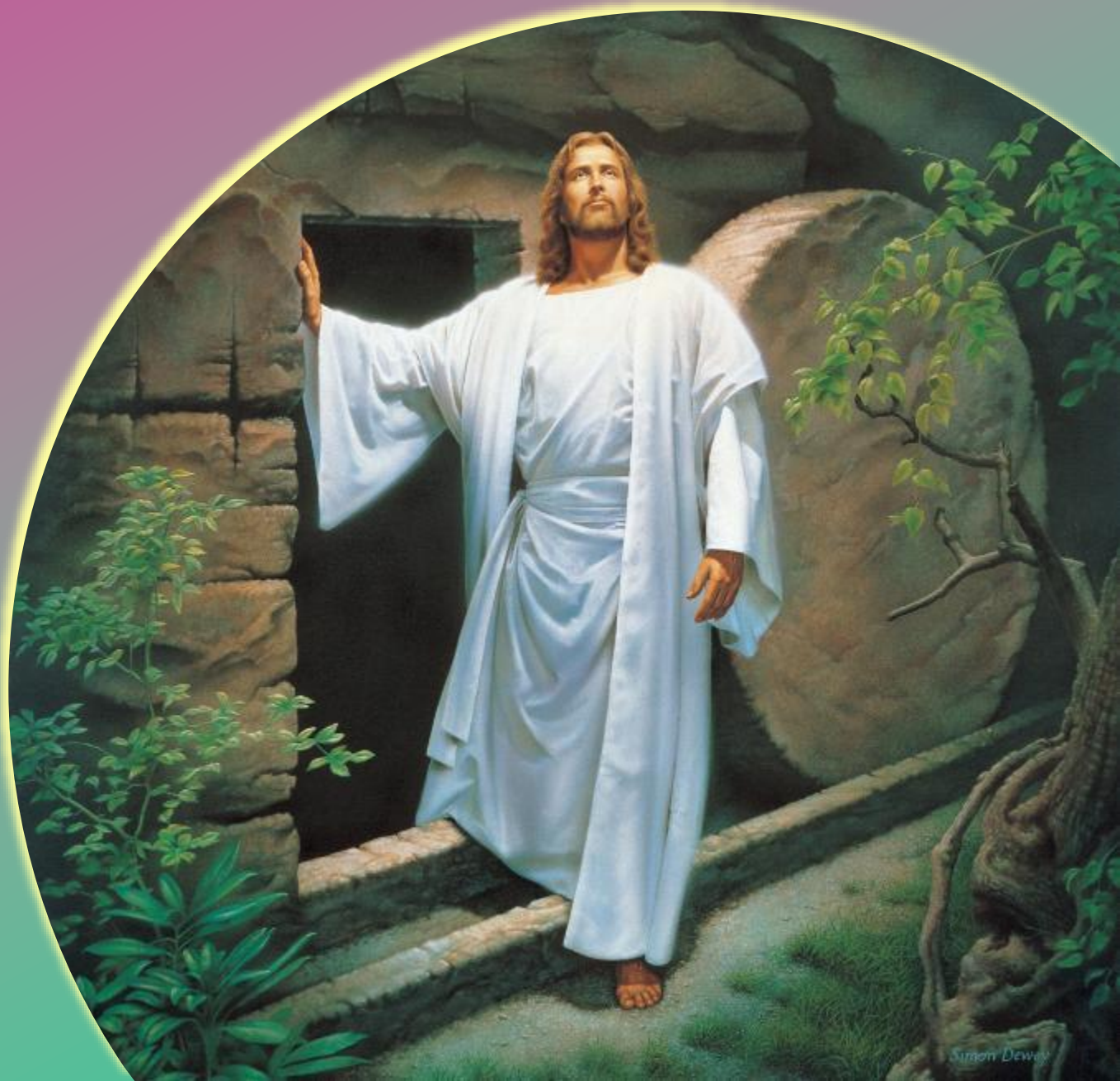
復活の体
(1コリ 15:35-49)

死に対する最終的な勝利
(1コリ 15:50-58)

+

○

キリストの 復活は 歴史的事実



キリストの復活を宣べ伝える

わたしが最も大事なことであなたに伝えたのは、わたし自身も受けたことであつた。すなわちキリストが、聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死んだこと、そして葬られたこと、聖書に書いてあるとおり、三日目によみがえったこと、(1 コリント15:3-4)

コリントの信徒たちが抱いていた復活に関する疑問を取り上げる前に、パウロは彼らに、福音がいかんして働くものかを思い起こさせています (1コリ 15:1,2)。

すでに福音は
伝えられた



あなたがたは
受け取った



しっかり覚えて
いるなら



救いは得られる

では、宣べ伝えられている福音とは何でしょうか。(1コリ 15:3-4)

キリストは私たちの
罪のために死なれた



キリストは葬られた



キリストは三日目
に復活された

復活が歴史的な出来事であったことを、私たちはどのようにして知ることができるのでしょうか。復活したイエスを誰が見たのでしょうか。(1コリ 15:5-8)

ペテロと
十二使徒



500人以上
の兄弟姉妹



ヤコブと
使徒たち



未熟児の
ようなパウロ

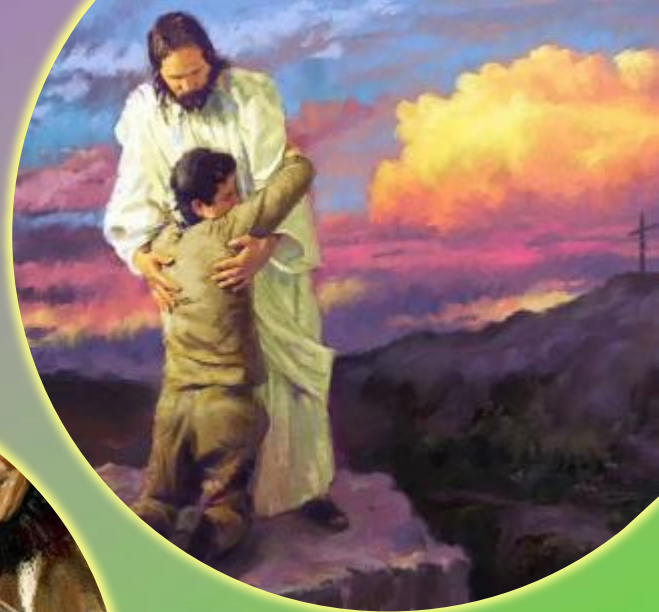
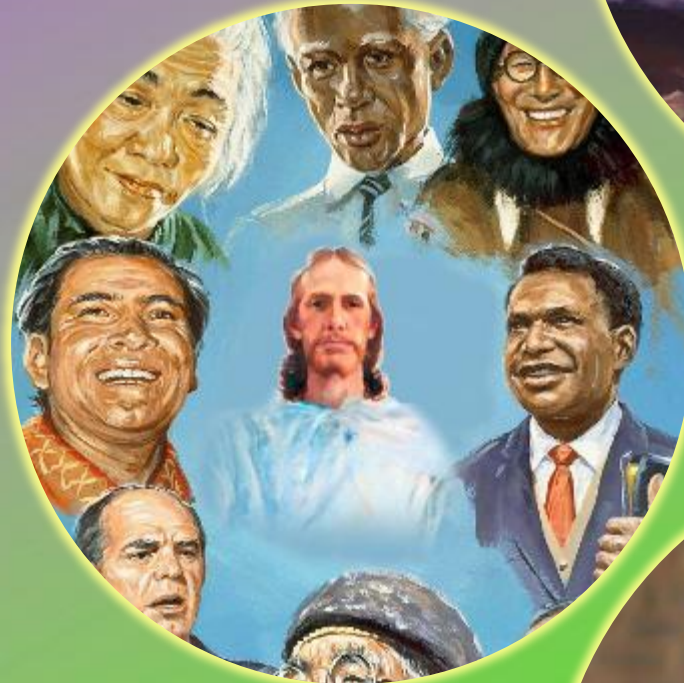
パウロは、福音とは「聖書に従って」成し遂げられた神の御業であることを明らかにしています。つまりそれは、復活が根本的な役割を果たす、あらかじめ定められた計画なのです。疑いを抱く者がいるなら、当時まだ生きていた証人たちに尋ねてみるがよいでしょう。



キリストの復活を信じる理由には、どんなものがあるでしょうか。

また、自分ではまだ見たことがないにもかかわらず、私たちが信じている世俗的なものや霊的なものには、他にどのようなものがあるでしょうか。

イエスの復活が もたらした結果



復活されたキリスト、私たちの唯一の希望

もしキリストがよみがえらなかったとしたら、わたしたちの宣教は
むなしく、あなたがたの信仰もまたむなしい。(1 コリント 15:14)



復活の可能性を否定することは、キリスト教信仰との矛盾を生じさせます。なぜなら、
「もし死者の復活がないのなら、キリストも復活しなかったことになる」(1コリ 15:12,13)
からです。そして、もしイエスが復活しなかったとしたら……

福音の宣教は無駄なもの[意味のないもの]である(1コリ 15:14)

私たちの信仰は空しいものです[意味のないもの](1コリ 15:14b) [使い物にならない](1 Cor. 15:17a)

私たちは偽りの証人です(1コリ 15:15)

私たちは今もお罪の中にいます(1コリント 15:17b)

キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったことになる(1コリ 15:18)



復活がなければ、イエスは理不尽に殺されたただの義人に
すぎず、人を救うことはできません。しかし、「キリストは
死者の中からよみがえられたのです」(1コリ 15:20)。
私たちには、生きておられる救い主がおられるのです。

それゆえに、福音には理にかなった意味があり、私たちの
信仰もまた然りです。私たちは忠実な証人であり、
罪は赦され、キリストにある死者は再び命を得るのです。



もし死者がすぐに天国（あるいは地獄）へと連れて行かれるのであれば、**I コリント 15 章**をどのように理解すればよいのでしょうか。

15:1 兄弟たち、わたしがあなたがたに告げ知らせた福音を、ここでもう一度知らせます。これは、あなたがたが受け入れ、生活のよりどころとしている福音にほかなりません。**15:2** どんな言葉でわたしが福音を告げ知らせたか、しっかり覚えていれば、あなたがたはこの福音によって救われます。さもないと、あなたがたが信じたこと自体が、無駄になってしまうでしょう。**15:3** 最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、**15:4** 葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、**15:5** ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。**15:6** 次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。そのうちの何人かは既に眠りについたにしろ、大部分は今なお生き残っています。**15:7** 次いで、ヤコブに現れ、その後すべての使徒に現れ、**15:8** そして最後に、月足らずで生まれたようなわたしにも現れました。**15:9** わたしは、神の教会を迫害したのですから、使徒たちの中でもいちばん小さな者であり、使徒と呼ばれる値打ちのない者です。**15:10** 神の恵みによって今日のわたしがあるのです。そして、わたしに与えられた神の恵みは無駄にならず、わたしは他のすべての使徒よりずっと多く

働きました。しかし、働いたのは、実はわたしではなく、わたしと共にある神の恵み
なのです。 **15:11** とにかく、わたしにしても彼らにしても、このように
宣べ伝えているのですし、あなたがたはこのように信じたのでした。 **15:11** とにかく、
わたしにしても彼らにしても、このように宣べ伝えているのですし、あなたがたはこ
のように信じたのでした。 **15:12** キリストは死者の中から復活した、と宣べ伝えられ
ているのに、あなたがたの中のある者が、死者の復活などない、と言っているのはど
ういうわけですか。 **15:13** 死者の復活がなければ、キリストも復活しなかったはずで
す。 **15:14** そして、キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であ
るし、あなたがたの信仰も無駄です。 **15:15** 更に、わたしたちは神の偽証人とさえ見な
されます。なぜなら、もし、本当に死者が復活しないなら、復活しなかったはずのキ
リストを神が復活させたと言って、神に反して証しをしたことになるからです。
15:16 死者が復活しないのなら、キリストも復活しなかったはずです。 **15:17** そして、
キリストが復活しなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今も
なお罪の中にあることになります。 **15:18** そうだとすると、キリストを信じて眠りに
ついた人々も滅んでしまったわけです。 **15:19** この世の生活でキリストに望みをかけ
ているだけだとすれば、わたしたちはすべての人の中で最も惨めな者です。

では、なぜ「死者は眠っている」という理解が、これほど
重要な教えとなるのでしょうか。

初穂なるキリスト

しかし事実、キリストは眠っている者の初穂として、死人の中からよみがえったのである。
(1コリント 15:20)

イエスの復活によって保証される第一の事実は、アダムの時代から世界の終わりまでの間に救いの計画を受け入れた私たちは、死んだとしても再び生きることです
(1コリ 15:20-23)。

私たちの復活の後、何が起こるのでしょうか。イエスは死を打ち破ることによって、ご自身のすべての敵を征服されることになります(1コリ15:25,26)。そしてイエスは、すべてを父に従わせ、「神がすべてのすべてとなられる」ようにされます(1コリ15:24, 28)。

こうした将来の保証に加え、パウロは私たちの日常生活に関わる二つの保証も示しています。



1コリント 15:30-32

たとえ苦しみや危険を伴うとしても、福音を宣べ伝えることには価値がある。



1コリント 15:33-34

聖書の原則にかなった生き方をすることは、価値あることです。

Ⅱ テモテ**1:12**にあるパウロの言葉を
振り返ってみましょう。

なぜ彼は未来について

これほど確信を持てたのでしょうか。

私たちにはどうすればそうできるのでしょうか。

+

○

私たちの 復活



復活の体

死人の復活も、また同様である。朽ちるものでまかれ、朽ちないものによみがえり、
(1 コリント 15:42)

復活した肉体に関する比喻：



復活の体

死人の復活も、また同様である。朽ちるものでまかれ、朽ちないものによみがえり、
(1 コリント 15:42)

現在の体と復活後の体にはどのような違いがあるのでしょうか？ (1 コリ15:42-44)

現在の身体

朽ちる

卑しい

弱い

肉の体

復活した体

朽ちない

輝かしい

力強い

霊的な体



アダムは地上の体を持ち、第2のアダム [イエス] は天上の体を持っていました。復活の際、私たちの体はキリストの体と同じ姿に変えられます。つまり、朽ちることのない、栄光に満ちた、力強い、霊的な、天上の体となるのです
(1コリ 15：45-49)。

私たちの体が完璧な姿へと
変えられるという確信は、
今日の肉体的限界に対して、
どのようにして私たちに
回復力を与えてくれるのでしょうか。

死に対する最終的な勝利

ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。(1 コリント 15:51)

パウロは、復活の時やその時に私たちの体に何が起こるかについて述べる前に、「血肉は神の国を継ぐことができない」(1コリ 15:50)と語っています。これは、復活後には物理的な体を持たないという意味なのでしょう。

「血肉」という表現は、常に「人間」の同義語として用いられています(マタ16:17、ガラ1:16、エフェ6:12、ヘブ2:14)。ここでパウロは対比を行っています。すなわち、地上の住人は「朽ちるもの」であり、天の住人は「朽ちないもの」である、ということです。私たちは今、朽ちゆく体をまっており、それゆえに、その体を天に携えていくことはできないのです。

再臨の際、朽ちるべき体は、イエスが復活された時の体のように、朽ちることのない体へと変えられます(1コリ 15:51-55、ルカ 24:36-40)。

イエスにあって眠った者たちにとっては、ほんの一瞬が過ぎ去ったように感じられることでしょう。つい先ほどまで死の冷たさを感じていた彼らは、今や、来られるイエスの姿を目の当たりにしているのです(1コリ15:52)。



人生がいかに早く過ぎ去るかを
嘆いたことのない人がいるでしょうか。

私たちは、イエスの再臨も
それくらい早く感じることでしょう。
こんな考えは、「遅れ」と見なされていることを
よりよく受け入れるうえで、いかに役立ちますか。

「イエスの復活は、キリストにあって眠るすべての者の最終的な復活の模範でした。救い主の復活した御体、その振る舞い、言葉の抑揚は、すべて弟子たちにとって馴染み深いものでした。同様に、イエスにあって眠る者たちも再びよみがえるでしょう。私たちは、弟子たちがイエスを知ったのと同じように、友人たちを知るようになるでしょう。たとえこの世の生涯において、彼らが身体に障害を抱えていたり、病に苦しんでいたたり、容姿が損なわれていたとしても、復活し栄光に包まれた体においては、その個人のアイデンティティは完全に保たれ、私たちは、イエスの御顔から放たれる光に照らされて輝くその顔の中に、愛する人々の面影を認めることになるのです。」